

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

村上市教育委員会

1 令和8年度全国学力・学習状況調査実施概況＜参考＞

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年

(3) 調査事項

① 児童生徒に対する調査

＜教科に関する調査＞

小学校調査…国語、算数 冊子を用いた筆記方式

中学校調査…国語、数学及び英語 国語と数学は冊子を用いた筆記方式

英語は1人1台端末を用いたオンライン方式

＜出題内容＞

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ・ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

② 質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査をオンライン方式で実施

(4) 調査実施学校・児童生徒数(村上市)

	小学校調査	中学校調査
学校数	全13校	全7校
児童生徒数	約310人	約240人

2 教科に関する調査

(1) 各教科の結果概要について

① 市内小・中学校の平均正答率(%)及び平均IRTスコア

	小 学 校		中 学 校		
	国語	算数	国語	数学	英語※
村上市	56	55	56	46	448
新潟県	58	55	62	54	482
全国(公立)	60.9	56.4	63.9	57.0	499

※ 平均正答率について、細かい桁における微少な差異は実質的な違いを示すものではないため、文部科学省からは、小数点以下を四捨五入した整数値で結果が提供されています。

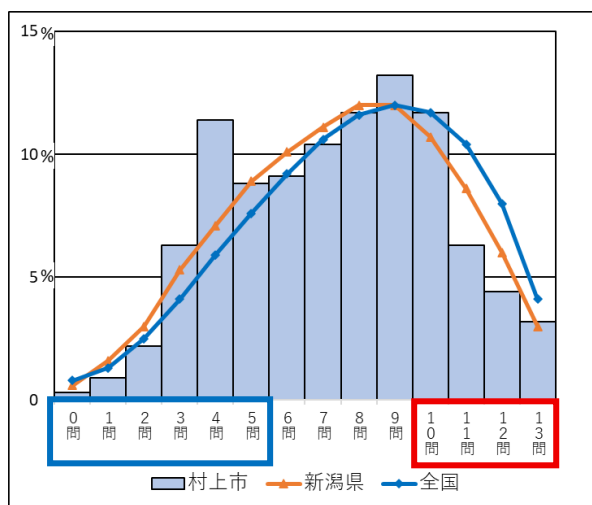
※ 中学校英語は1人1台端末を用いて各生徒に異なる問題が出題され、上記の表は平均IRTスコアを示しています。IRTとは、国際的な学力調査や英語資格・検定試験で採用されているテスト理論であり、異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じ尺度で比較するためのものです。

小学校の算数は新潟県と同程度でした。しかし、小・中学校すべての教科で全国を下回りました。特に、中学校はすべての教科で新潟県、全国を大きく下回りました。

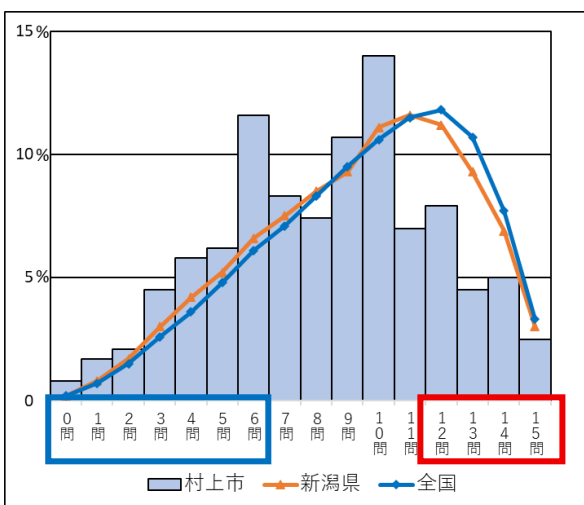
② 各教科の正答数分布グラフ

- 正答数（中学校英語は IRT バンド）分布グラフは、棒が村上市、折れ線が新潟県、全国の結果を表しています。
- グラフの赤枠の児童生徒を「正答率の高かった児童生徒」、青枠の児童生徒を「正答率の低かった児童生徒」としています。

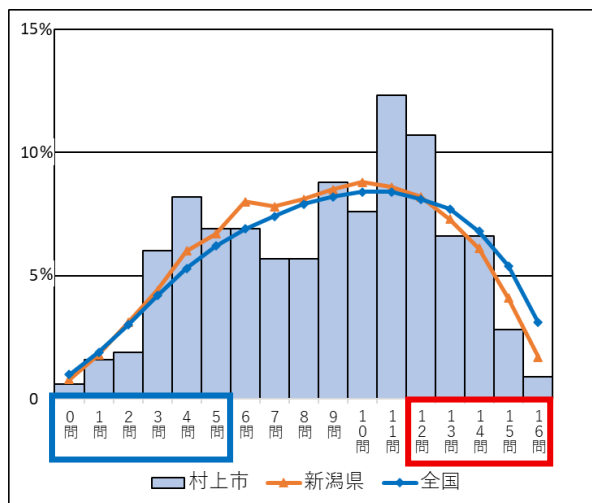
＜小学校 国語＞



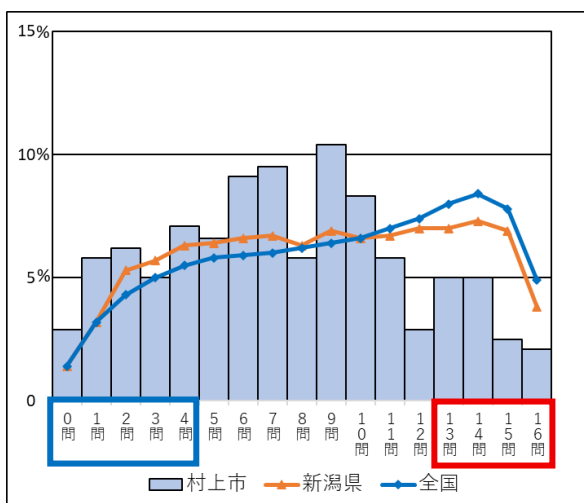
＜中学校 国語＞



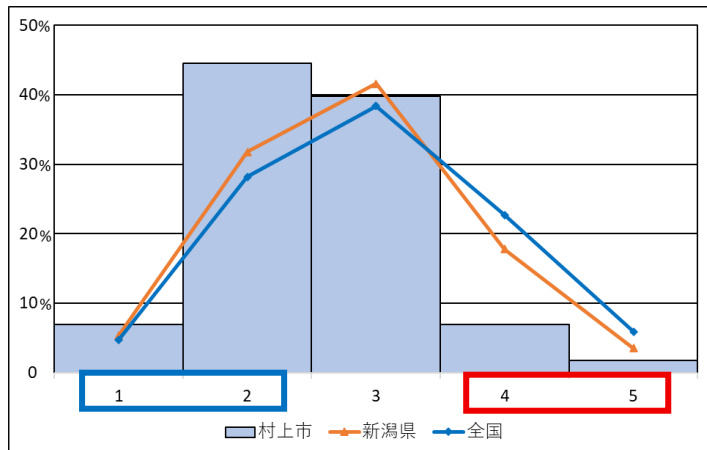
＜小学校 算数＞



＜中学校 数学＞



＜中学校 英語＞



※ 中学校英語について、IRT バンドと IRT スコアの関係は以下のとおりとなっております。

IRT バンド	1	2	3	4	5
IRT スコア 換算	～ 341	342 ～ 448	449 ～ 556	557 ～ 663	664 ～

小・中学校すべての教科で、正答率の高かった児童生徒の割合が新潟県、全国を下回っているといえます。一方で、正答率の低かった児童生徒の割合は、新潟県、全国を上回っているといえます。

(2) 各教科の問題別平均正答率について

① 評価の観点ごとの平均正答率(%)

	小 学 校		中 学 校	
	国語	算数	国語	数学
知識・技能	57.6	57.4	57.7	53.1
	58.1	58.1	62.6	60.4
	62.0	60.1	64.2	63.0
思考・判断・表現	55.6	46.1	54.3	26.5
	57.6	44.0	62.1	35.9
	60.1	45.4	63.7	39.1

※ 中学校英語は IRT による実施のため、データは公表されていません(以下②も同様)。

※ 上段：村上市(太字)、中段：新潟県、下段：全国の平均正答率です(以降も同様)。

小学校では、算数の「思考・判断・表現」が新潟県、全国を上回りました。一方で、その他はすべて新潟県、全国を下回りました。

中学校では、どちらの教科も「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに新潟県、全国を大きく下回りました。

② 問題形式ごとの平均正答率(%)

	小 学 校		中 学 校	
	国語	算数	国語	数学
選択式	57.0	54.6	65.2	50.3
	59.3	55.2	70.9	57.2
	61.9	56.0	72.7	59.3
短答式	56.0	57.2	49.4	54.0
	56.9	57.8	54.4	61.4
	62.6	59.7	55.8	64.2
記述式	54.9	47.7	33.3	26.5
	52.1	44.9	44.3	35.9
	54.9	48.5	45.5	39.1

小学校では、どちらの教科も「記述式」が新潟県を上回りました。一方で、その他はすべて新潟県、全国を下回りました。

中学校では、すべて新潟県、全国を下回りました。特に、「記述式」でその度合いが大きくなっています。

③ 全国の平均正答率を上回った問題と下回った問題

- 各教科の問題について、全国の平均正答率を上回った問題の上位2問、及び下回った問題の下位2問を掲載しています。
- 中学校は全国の平均正答率を上回った問題がなかったため、全国の平均正答率と差の小さかった2問、及び差の大きかった2問を掲載しています。
- 中学校英語は公開問題と非公開問題から構成されており、ここでは公開問題についてのみ掲載しています。
- 「正答率」の欄は、上段：村上市（太字）、中段：全国、下段：全国との差です。

<小学校>

教科	分類	正答率	設問	評価の観点	出題形式	出題の趣旨
国語	上位	78.9 76.4 +2.5	3 三 (2)	思考・ 判断・ 表現	記述式	文章を読んで理解したことに基 づいて、自分の考えをまとめるこ とができるかどうかをみる
		49.8 48.9 +0.9	2 二	知識・ 技能	選択式	考えとそれを支える理由や事例な ど情報と情報との関係について理 解することができるかどうかをみ る
	下位	48.3 57.9 -9.6	2 一	思考・ 判断・ 表現	選択式	筋道の通った文章となるように、 文章全体の構成や展開を考えるこ とができるかどうかをみる
		34.7 45.2 -10.5	2 三 イ	知識・ 技能	短答式	学年別漢字配当表に示されている 漢字を文の中で正しく使うことが できるかどうかをみる
算数	上位	41.0 36.1 +4.9	2 (3)	思考・ 判断・ 表現	選択式	単位量当たりの大きさを求める除 法の式の意味を理解し、その商か ら二つの広場のどちらの方が混 んでいるのかについて判断できる かどうかをみる
		58.4 56.2 +2.2	4 (1)	思考・ 判断・ 表現	記述式	示された二つの表から、集計に誤 りのある項目を見付け、その根拠 を表の中の数と言葉を用いて記述 できるかどうかをみる
	下位	12.0 17.9 -5.9	4 (3)	知識・ 技能	短答式	二次元の表から、条件に合う数を 読み取ることができるかどうかを みる
		56.2 63.0 -6.8	1 (2)	知識・ 技能	短答式	直方体の箱の形を構成する面につ いて理解しているかどうかをみる

国語では、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを文章にまとめる問題が全国を上回りました。一方で、文章の工夫を読み取ることや漢字の習熟に関する問題が全国を大きく下回りました。

算数では、表を読み取って混み具合の違いを求めたり、二つの表の違いを文章で説明したりする問題が全国を上回りました。一方で、二次元の表の数の意味を読み取ったり、直方体を構成する面を考えたりする問題が全国を大きく下回りました。

＜中学校＞

教科	分類	正答率	設問	評価の 観点	出題形式	出題の趣旨
国語	上位	67.8 70.4 <u>-2.6</u>	2 二	思考・ 判断・ 表現	選択式	必要に応じて質問しながら話の内容を ことができるかどうかをみる
		88.8 92.3 <u>-3.5</u>	3 二	思考・ 判断・ 表現	短答式	表現の効果を考えて描写することがで きるかどうかをみる
	下位	53.7 68.7 <u>-15.0</u>	4 三	思考・ 判断・ 表現	選択式	目的に応じて必要な情報に着目して要 約し、内容を解釈することができるか どうかをみる
		35.5 52.7 <u>-17.2</u>	2 四	思考・ 判断・ 表現	記述式	互いの立場や考えを尊重しながら話し 合い、結論を導くために考えをまとめ ることができるかどうかをみる
数学	上位	62.2 65.0 <u>-2.8</u>	6 (2)	知識・ 技能	選択式	事柄が成り立つ理由を文字を使って説 明するための方針を立てることができ るかどうかをみる
		81.7 85.7 <u>-4.0</u>	1	知識・ 技能	短答式	具体的な場面において、正の数と負の 数を用いて変化や状況を表すことがで きるかどうかをみる
	下位	27.4 44.6 <u>-17.2</u>	6 (3)	思考・ 判断・ 表現	記述式	統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数 学的な表現を用いて説明することがで きるかどうかをみる
		36.5 55.3 <u>-18.8</u>	4	知識・ 技能	短答式	反比例の関係を表す数の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めるこ とができるかどうかをみる
英語	上位	45.8 47.5 <u>-1.7</u>	1 2	思考・ 判断・ 表現	記述式／ 口述式	日常的な話題について、事実や自分の 考え、気持ちなどを整理し、まとまりの ある文章を書くことができるかどうか をみる
		76.0 78.5 <u>-2.5</u>	2	思考・ 判断・ 表現	選択式	日常的な話題について、目的に応じて、 必要な情報を聞き取ることができるか どうかをみる
	下位	39.1 58.9 <u>-19.8</u>	1 1 ①	知識・ 技能	短答式／ 口述式	音声や語彙、表現、文法、言語の働きな どの知識を、書くことによる実際のコ ミュニケーションにおいて活用できる 技能を身に付けているかどうかをみる
		52.4 72.4 <u>-20.0</u>	7	思考・ 判断・ 表現	選択式	日常的な話題について、目的に応じて、 必要な情報を読み取ることができるか どうかをみる

国語では、文章から必要な情報を読み取り解釈する問題、話し合いの内容を踏まえて自分の考えを文章にまとめる問題が全国を大きく下回りました。

数学では、数の規則性について文章で説明する問題、反比例の数を求める問題が全国を大きく下回りました。

英語では、コミュニケーションの場面に合わせて英文を書く問題、英文から必要な情報を読み取る問題が全国を大きく下回りました。

3教科すべて平均正答率が全国を上回る問題がありませんでした。各教科において確かな学力を育成することが喫緊の課題です。

3 児童生徒質問調査

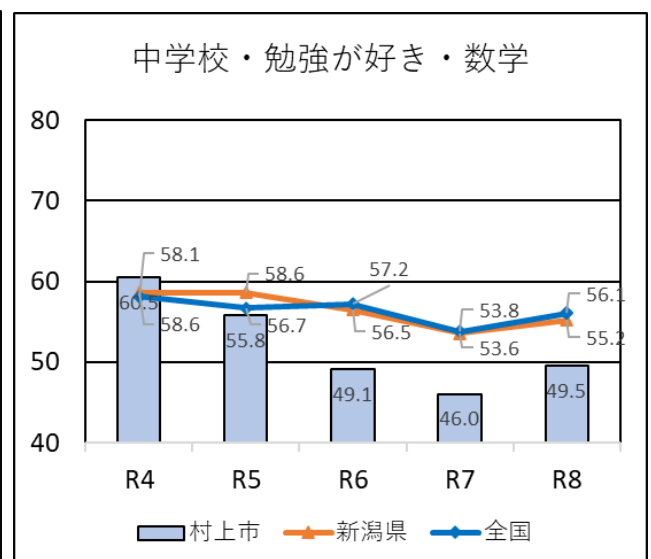
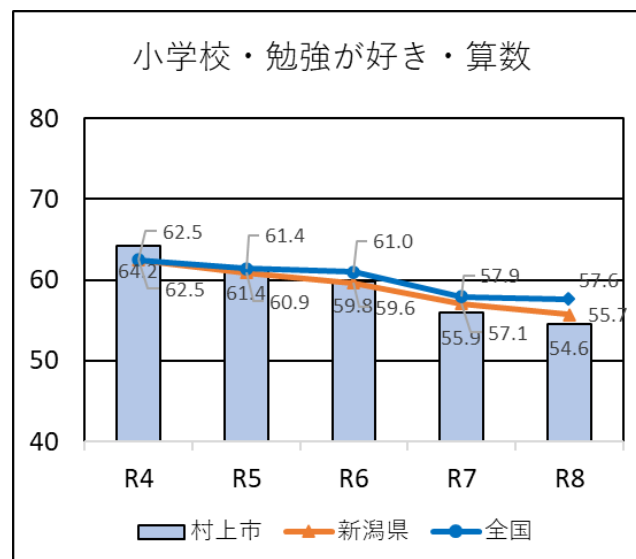
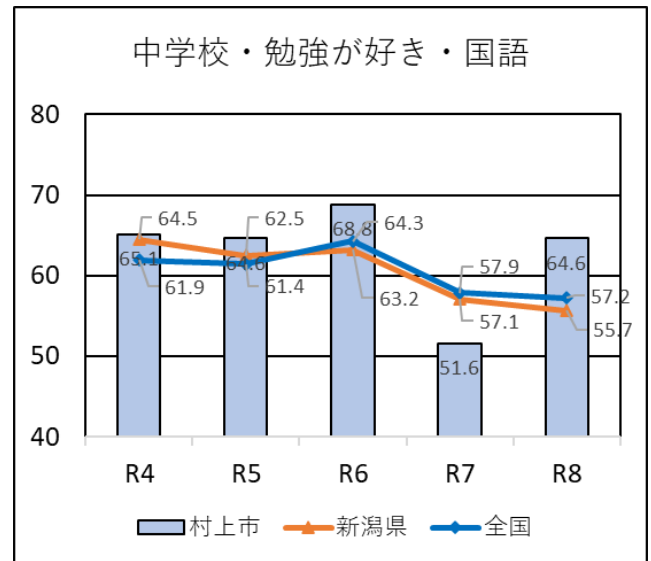
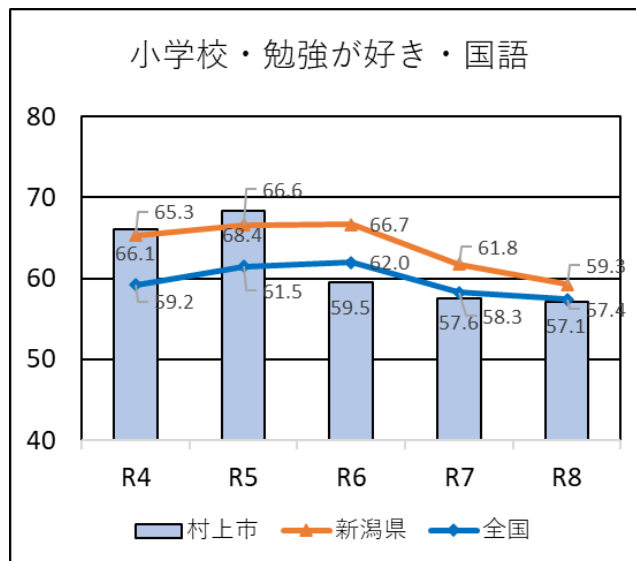
(1) 教科の学習に対する興味・関心等について

① 「教科の勉強が好き」と回答した児童生徒の割合(%)

小学校		中学校		
国語	算数	国語	数学	英語
57.1	54.6	64.6	49.5	46.1
59.3	55.7	55.7	55.2	50.7
57.4	57.6	57.2	56.1	51.2

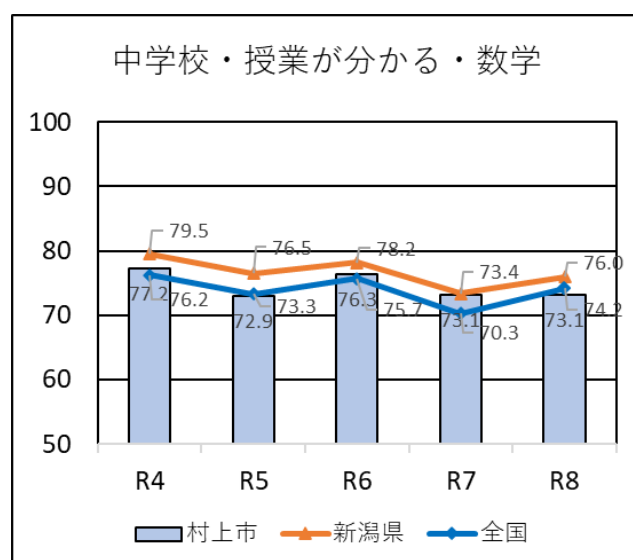
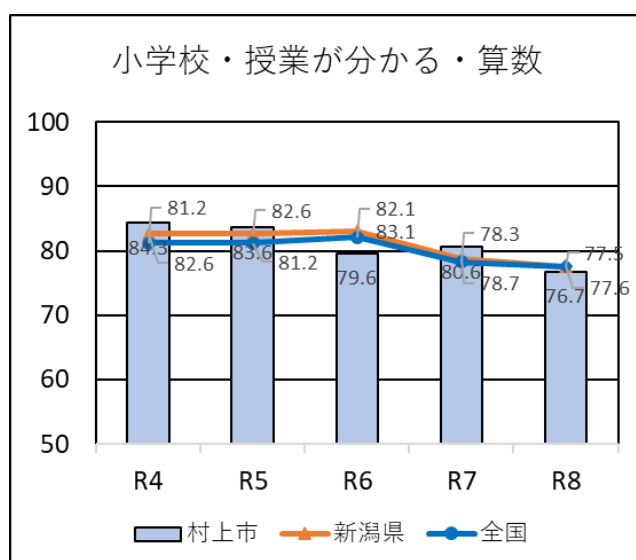
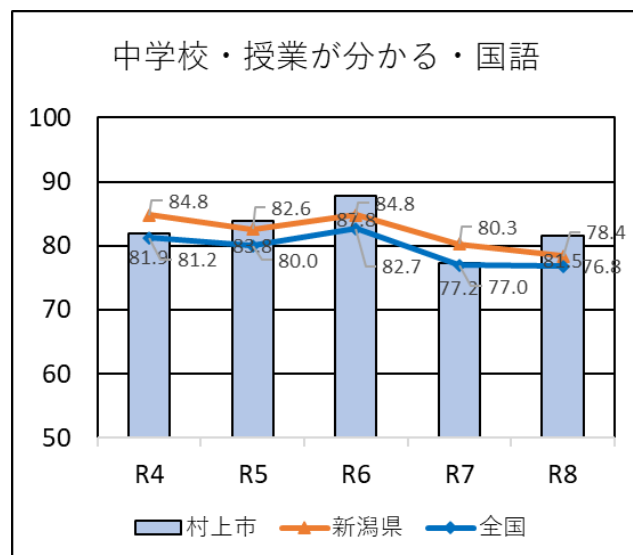
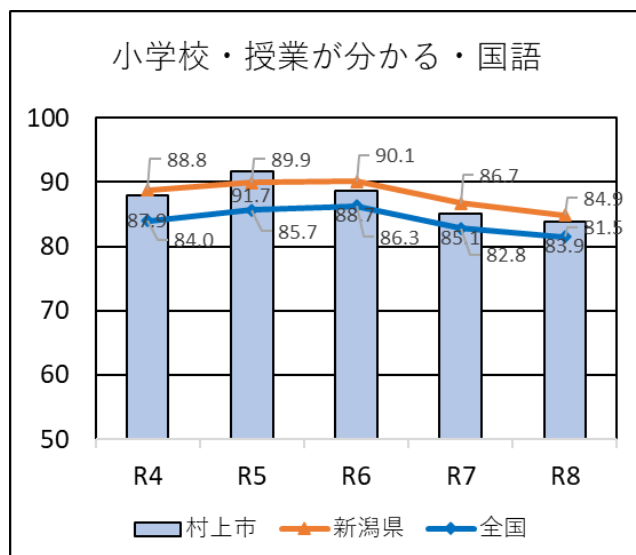
「教科の勉強が好き」と回答した児童生徒の割合は、中学校国語で全国を上回りましたが、その他はすべて全国を下回りました。特に、算数・数学、英語の度合いが大きいといえます。

② 上記①の割合の推移(国語及び算数・数学)と新潟県・全国との比較



「教科の勉強が好き」と回答した児童生徒の割合は、中学校国語で新潟県、全国を大きく上回りました。一方で、その他は例年、新潟県、全国を下回っています。中学校では改善が見られますが、小学校ではここ数年、低下傾向になっています。

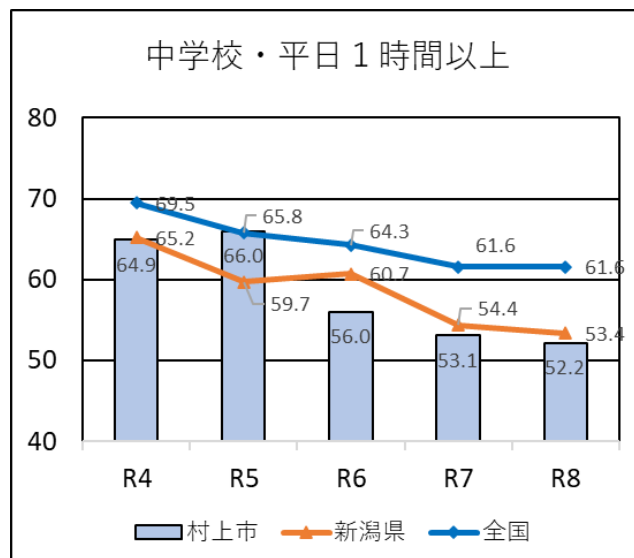
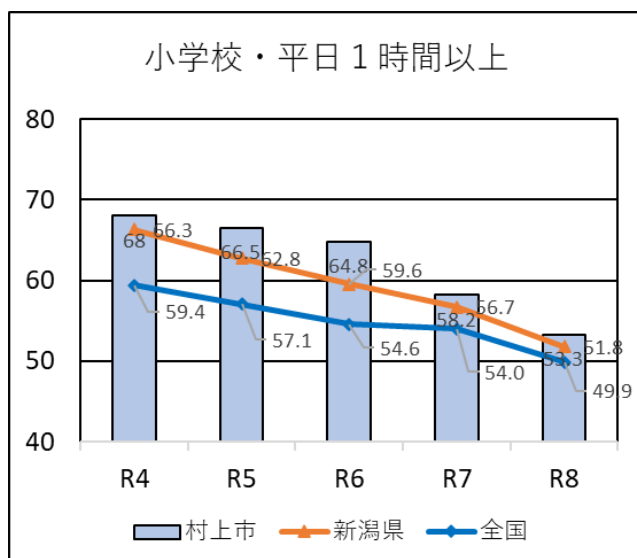
③ 「授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合（％）の推移（国語及び算数・数学）と全国との比較



「授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合は、例年 70～80％台を推移しており、多くの児童生徒が授業の内容を理解できていると感じています。一方で、2（1）で示した平均正答率から、児童生徒の実感と学力実態には大きな差があるといえます。

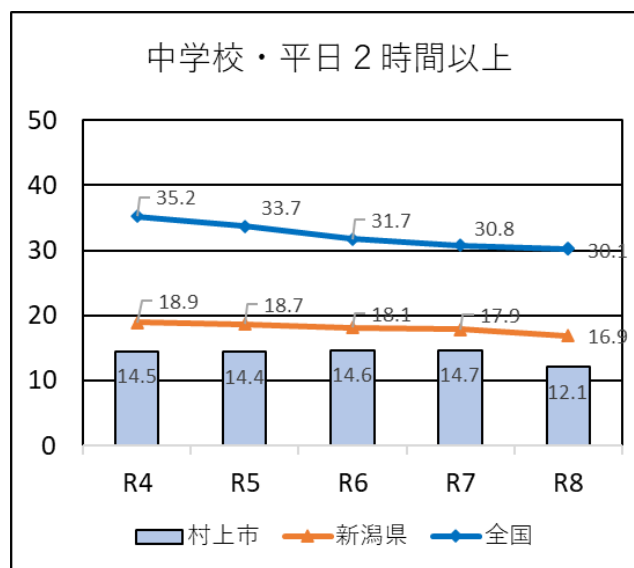
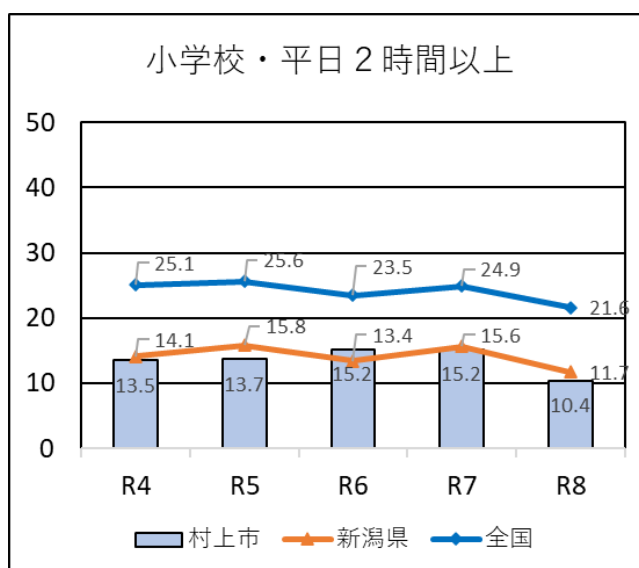
(2) 家庭学習について

① 平日に1時間以上、授業時間以外で勉強していると回答した児童生徒の割合(%)の推移



平日に授業時間以外で1時間以上勉強している児童生徒の割合は、小学校では新潟県、全国を上回っているものの、ここ数年の低下が顕著です。一方で、中学校でもここ数年、低下傾向であり、全国との差はさらに開いています。

② 平日に2時間以上、授業時間以外で勉強していると回答した児童生徒の割合(%)の推移



平日に授業時間以外で2時間以上勉強している児童生徒の割合は、小・中学校ともに、新潟県、全国を下回っています。特に全国と大きく差が開いている状況です。

③ 家庭学習の指導に関する質問での肯定的回答の割合（％） ※学校質問調査の結果

質問番号及び質問内容	小学校	中学校
(小81) (中89) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	100 97.8 96.6	100 94.4 91.2
(小82) (中90) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童（生徒）が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	100 94.7 91.1	66.7 90.6 85.0
(小83) (中91) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童（生徒）の学習改善に生かしましたか	92.3 88.5 90.5	83.3 83.1 83.2

上記（中90）の質問は、新潟県、全国を下回りましたが、その他は新潟県、全国を上回りました。一方で、（2）で示した児童生徒の家庭学習時間は、新潟県、全国と比べて差があります。家庭学習の指導を工夫したり、家庭とのさらなる連携を図ったりしていく必要があります。

(3) 1人1台端末の活用について

① 前学年までに受けた授業で、1人1台端末を、ほぼ毎日使用したと回答した児童生徒の割合（％）

質問番号及び質問内容	小学校	中学校
(35) 小学校5年生までに（中学校1、2年生で）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか …「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用）」と回答した児童生徒の割合（％）	39.2 48.7 43.0	35.6 62.1 55.1

小・中学校ともに新潟県、全国を下回りました。特に、中学校の授業における1人1台端末の活用を推進していく必要があります。

② 平日30分以上、授業時間以外で1人1台端末を活用して学習していると回答した児童生徒の割合（％）

質問番号及び質問内容	小学校	中学校
(24) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか	32.3 37.7 34.6	18.9 27.6 30.0

小・中学校ともに新潟県、全国を下回りました。特に、中学校の家庭学習における1人1台端末の活用を推進していく必要があります。

(4) 上記以外で「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が全国を大きく上回った質問

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が全国と比べて5.0%以上高かった質問を掲載しています。

① 小学校

- (12) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- (20) あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか
- (42) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか
- (46) 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか
- (49) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか
- (50) 学級会における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか
- (65) 5年生までに受けた授業では、算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか

② 中学校

- (1) 朝食を毎日食べていますか
- (12) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- (20) あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか
- (21) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか（「よくある」）
- (39) 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- (42) 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか
- (47) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
- (48) 総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか
- (49) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか
- (50) 学級会における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか
- (58) 1、2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていましたか

児童生徒はよりよい学級生活を送るための学級づくりに主体的に取り組み、その中でお互いを認め合い、学び合うことで考えを深めたり、新たな考え方に触れたりすることの意義を実感しています。また、いじめをしない、許さない意識が醸成されていることが分かります。

4 学校質問調査

(1) 1人1台端末の活用について

① 1人1台端末を授業でほぼ毎日活用している学校の割合（％）

質問番号及び質問内容	小学校	中学校
(小60) (中68) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか …「ほぼ毎日活用している」と回答した学校の割合（％）	84.7 84.6 82.8	83.4 85.0 82.3

② 1人1台端末を毎日持ち帰らせている学校の割合（％）

質問番号及び質問内容	小学校	中学校
(小67) (中75) 児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか …「毎日持ち帰らせている」と回答した学校の割合（％）	84.6 66.0 43.2	83.3 82.1 53.2

小・中学校ともに新潟県、全国をほぼ上回りました。一方で、(3) ①・②で示した児童生徒の授業・家庭における1人1台端末の活用時間は、新潟県、全国を下回っています。児童生徒に1人1台端末の意義を実感させ、さらなる活用を促していく必要があります。

5 今後の取組

(1) 心理的安全性を育む学級づくり

確かな学力を育成するためには、「分からない」「間違えた」「もっとこうしたい」といった自分の思いを安心して伝えることができる心理的安全性の醸成が大切になります。これまで実施してきた市学級づくり研修会、市学力向上情報交換会等をさらに充実させ、児童生徒が安心して学習に取り組むことができる学級づくりを進めていきます。

(2) 確かな学力の育成に向けた授業改善

① 「村上市の授業づくり」の推進

これまで村上市では学習課題の工夫、対話的な活動、学習内容の整理・共有、振り返りの時間の設定を基本的な授業過程にした「村上市の授業づくり」を進めてきました。このように市内の教員が同じ方向性で授業改善に取り組んでいることが児童生徒の学級で学ぶことの意義の実感等につながっていると考えられます。以下に述べる授業改善のポイントを踏まえながら、今後も各校への授業づくり訪問や市学力向上研修会を通して「村上市の授業づくり」のさらなる推進を図っていきます。

② 学力課題を踏まえた授業改善のポイントの共有

今回の調査で村上市の様々な学力課題が明らかになりました。これらを踏まえて、村上市として確かな学力の育成のために授業をどのように改善していけばよいのかを市校長会議での指導や市学力向上研修会を通して全小・中学校と共有していきます。授業改善のポイントとして以下の点が挙げられます。

- ・ 読書や音読を通して長文（英文を含む）を読む機会を確保する。
- ・ 学習指導要領で示されている育成すべき資質・能力を踏まえた単元や授業づくりを心掛ける。
- ・ 「深い学び」に向かうための各教科の見方・考え方を丁寧に指導する。
- ・ 学習課題に対して、児童生徒がまずは自分でじっくりと考える時間を保障する。
- ・ 文章、問題、英文等から情報を取り出したり、そこから自分の考えを形成したりする学習活動を大切にする。
- ・ 自分の考えを他者に説明したり、文章でまとめたりする学習活動（英語を含む）を大切にする。

また、国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」及び県「にいがた学びチャレンジ教材」の活用も周知していきます。

③ 学校間連携の充実

村上市全体で確かな学力を育成するためには、中学校区における小・中学校間、同じ校種の中での小学校間・中学校間等の学校間での連携が欠かせません。これまで市学力向上研修会や市学力向上情報交換会を通して、学校間で連携を図るための場を設定してきました。今後もそのような場を確保し、村上市の学力実態や授業改善の方向性、確かな学力の育成に係る取組の好事例を共有するなどして充実を図っていきます。

(3) 1人1台端末の効果的な活用

① 1人1台端末活用のための環境整備

ICT 支援員による学校訪問や提携業者が設定しているヘルプデスクの利用を周知し、児童生徒も教員も安心して1人1台端末を活用できる環境を整備していきます。

② 教員のための研修会の計画的な実施

児童生徒が教科等の学びを深めるためのツールとして1人1台端末を活用することができるよう、これまでと同様に教員のスキル向上を図る研修会を計画的に実施していきます。

③ 学校間における好事例の共有

授業や家庭学習における1人1台端末の活用で成果を上げている学校があります。市学力向上情報交換会や市 ICT 推進リーダー会議を通してそれらの好事例を共有することで、さらなる効果的な活用につなげていきます。

(4) 家庭学習の確立

① 授業と関連付けた家庭学習指導

目的意識が明確になることで児童生徒は家庭学習に主体的に取り組むようになります。それが、家庭学習時間の改善につながると考えられます。そのためには、授業と家庭学習をいかに関連付けるかが大切です。授業の復習として家庭学習に取り組ませるだけでなく、家庭学習の内容を翌日の授業で扱う、授業の予習を家庭学習として取り組ませるなど、授業と関連付けた家庭学習の指導を進めます。

② 家庭学習指導に関する情報共有

村上市では毎年全小・中学生を対象に「家庭学習等状況調査」を実施し、家庭学習時間や自分で計画を立てるプランニングの取組状況を把握するとともに、それに基づいた市としての方向性を各校に示し、指導につなげています。今後もその取組を充実させるとともに、市校長会議や市学力向上情報交換会を通して家庭学習指導に関する情報を各校に共有していきます。

③ 家庭との連携

家庭学習の確立のためには家庭との連携が欠かせません。家庭学習の取組に関する情報を提供するとともに、保護者の方々と思いを共有しながら児童生徒への指導を進めていきます。